

## 獣医学教育モデルコアカリキュラム

### 導入教育・基礎獣医学分野の目指すもの

○西原真杉 東大農学生命科学研究科

本分野では、導入教育3科目（獣医学概論、獣医法規、獣医倫理）、基礎獣医学9科目（解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、薬理学、動物育種学、動物行動学、実験動物学）のモデル・コア・カリキュラム作成作業が進行している。文部科学省の「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の下に設けられた「教育内容に関する小委員会」では、前者に計6単位、後者に計23単位が想定されており、小委員会でリストアップした講義科目の全単位数（94単位）の約30%に相当する。本分野が目指すものは、獣医師としての資質と基礎的能力の涵養、さらに獣医学に関連するどのような職域においても必要とされる課題探求能力や問題解決能力の育成であると考えられる。導入教育においては獣医学とは何か、あるいは獣医師に求められるもの等の基本的な事項と関連法規に関する教育が中心になるが、社会ニーズの変化や国際対応などについても配慮されている。小委員会の調査では、導入教育に相当する教育は現在ほとんどの獣医系大学において十分に実施されているとは言えない状況であるが、今後益々重要性を増す獣医師の社会的責務という観点から本コアカリ事業では必修科目として位置付けられている。基礎獣医学は、臨床獣医師や公衆衛生獣医師を含む広範な職域の獣医師が身に付けるべき基本的事項からなるもので、解剖学、生理学、薬理学などの古典的科目（内容は革新されているが）から、新たに重要性を増してきている動物行動学、実験動物学などを包含している。基礎獣医学ではその実習も含め、自ら問題を発見する姿勢や研究への動機付けを涵養することも大きな目標である。導入教育・基礎獣医学分野は獣医学の専門教育の中でも比較的初期に教育されることが望まれる分野であり、基礎的な学力を習得することも重要であるが、それ以降の長期間にわたる専門教育や獣医学関連の各職域への動機付け、目的意識の醸成という観点からも重要な位置付けにある。